

## 4 事業創出活動

### □公共経営分野

#### まちづくり活動

#### □ひこね街の駅「寺子屋力石」/多賀「里の駅」/足軽辻番所

本学の「まちづくり」活動は、NPO 法人彦根景観フォーラム(本学が中心になって 2004 年 8 月に設立)と共同して実施している点に大きな特徴を持ち、その内容は 3 つの古民家(ひこね街の駅「寺子屋力石」/多賀「里の駅」/足軽辻番所)の再生活動、シンポジウムの企画実施活動、古民家実測活動、まちづくり情報誌発行活動などである。

これら活動の大部分は例年通り実施された。その中で、今年度は古民家(足軽辻番所)の再生がまちづくり活動にまで広がっている「彦根芹橋まちづくり」活動について報告する。

#### 足軽辻番所を起点とした歴史まちづくり—彦根芹橋地区

「あの建物が売りに出される。」近所に住んでいる人が知らせてきた。その人は NPO 法人彦根景観フォーラムが主催する歴史まちづくりイベントに参加して、この建物の歴史的価値を知り、何としても守りたいと思ったのだ。平成 19 (2007)年 3 月初めのことである。

江戸末期に建てられたこの建物は、足軽屋敷と辻番所から成る古民家(以下、足軽辻番所)で、両壁に「覗き窓」がある。この窓から東西筋と南北筋の先までを見通せるように、両筋が辻番所の位置で鍵状に曲げられている。このような古民家は全国を見回してもここにしかない。

所在地区も足軽部隊の居住地という独特な特徴を持つ。彦根城の外濠と人工付け替え河川・芹川に挟まれた芹橋と呼ばれる地区で、城と城下を守る目的を持つ足軽の主力部隊が稽古と鍛錬の生活をしている空間である。この建物はまさにこの芹橋地区の中央部にある。

筋の配置構造は、筋幅が一間半(2.7m)と狭く、直線的に進めないように、「くいちがい」のある十字路や、行き止まりに見える「どんつき」が各所に設けられている。彦根藩の足軽は苗字帯刀を許され、5 間×10 間(9 メートル×18 メートル)と小さいものの、門塀、玄関、座敷、庭など侍の格式をもつ屋敷をあてがわれ、筋に沿って整然と並んでいたのである。

最盛期には 700 件の足軽屋敷が軒を連ねていたが、今でも 30 件が残っている。戦後外濠が埋め立てられ彦根の繁華街に近くなったものの、筋の配置構造や敷地割は往時のままである。多くの敷地は空き地を残しつつも新しい家に建て替わり、現在では路地に特徴を持つ街なかの閑静な住宅地になっている。

古民家の所有者と話をした。「この建物は足軽の仕事や生活・文化を知る上で貴重なものだ。保存再生したいので、当方に貸すか、寄付を考えてもらえないか。」これに対して先方の返事は、「自分はここで育ったが、就職を機会に家を離れ、この家は人に貸してきた。ここ数年借り手もなく、空き家の状態。老後資金の確保のために、売りたい。」であった。話し合った結果、「保存再生を目的に買ってくれるなら、1 年間待つ。」こととなった。

本来、このような物件は市が買い取って所有し、地元に住む市民が自分たちの資産として自主的に運営すべきだ。しかしながら、所有者の事情を考えると迅速な行動と決断が必要であり、行政のスピード感では対応に限界がある。「足軽辻番所」の保全を目的に寄付を仰ぎ、基金をつかって「トラスト(信託)方式」で土地・家屋を買い取り、念願かなった暁には、市民による自主運営を担保しつつ市に寄付することに NPO で決めた。

まず、地元在住の誰もが知っている文化人・財界人・大学人に趣旨を説明して、トラストの呼びかけ人になってもらう。そして、呼びかけ人の名前で、募金運動の開始を発表し、同時に心ある人に説明してトラスト発起人に就任いた

だ。発起人の役割は、寄付と自身のネットワークを通じた募金活動だ。

なぜ、募金ではなく「トラスト運動」という方式をとったか、その狙いを示そう。第1は主宰者への信頼をベースに置くことによって、運動の輪が数珠つなぎのように広がるからだ。第2は寄付した人全員がトラストの当事者であるという意識を持つようになるからだ。散策、建物内覧、ワークショップなどの活動もした。

このようなトラストの自主的な活動は、多くの市民や行政・議会に熱い思いを伝えた。行政や議会にも動きが出てきた。同年の12月議会に「文化財保護基金条例」が上程され、その審議過程で「足軽辻番所のような案件に対処するため」という説明があり、明らかにトラスト活動が条例制定に影響を与えたと思われる。

足軽辻番所の所有者に約束した期限が迫ってきたが、必要な資金が集まらない。当初の考えに立ち返り、集めた資金と文化財保護基金を組み合わせ、「市による買取り・市民による自主管理」という考え方を推進したらどうだろうか。平成20(2008)年3月初め、市当局はこの提案を受け入れた。その後は手続きが順調に進み、市による足軽辻番所の購入が同年8月に行われた。

並行して、「市民による自主運営」に向けて、運営組織づくりに着手したところ、同年10月には、地元有志による「彦根辻番所の会」が設立された。かくして、足軽辻番所の所有者である彦根市当局と協議しながら、NPO法人彦根景観フォーラムとの協力連携のもとに、彦根辻番所の会がこの建物の運営にあたる方向が決まった。

平成21(2009)年になって事態は急進した。まず、1月に彦根市の提案した彦根歴史まちづくり計画が、「歴史まちづくり法」に基づく政府の一号認定を受けた。足軽辻番所が保存修理の対象となり、芹橋地区は重点区域に指定され、さらに、2月には足軽辻番所が市文化財に指定された。

単体として足軽辻番所を保存し活用する段階から、芹橋地区の「歴史的風致」を後世に継承していくまちづくりの段階に前進したのである。早速、NPOの指導のもとに彦根辻番所の会の規約を改正してまちづくり推進組織に改編し、互いを知り合う「芹橋サロン」活動や、安全安心と歴史的風致を両立させるまちのあり方を研究する活動を開始した。

平成22(2010)年に東大西村教授による「路地を生かした歴史的町並みの保存と再生」と題する講演を基調にして、芹橋地区のまちづくりについて話し合った。歴史的町並みの保存には路地の維持が不可欠なことを確認し、路地の維持/防災の仕組み/建築ルールをセットで合意できれば、21世紀まちづくりのモデルになり得るという結論に達した。平成23(2011)年には、得られた結論を具体的なイメージに高めるべく、先進地「檀原市今井町」を視察し、行政・保存会・NPO団体の方々と意見交換をした。

長期的な視点と推進のベースになるデータの重要性を再認識したことから、平成24(2012)年には、芹橋地区の防災設備の状況、空家・空地の状況について調査をおこない、まちづくりマップを作成した。今後はこのマップを活用して、路地の維持/防災の仕組み/建築ルールをセットで合意する努力を図る所存である。(文責 客員教授 山崎 一真)

#### 【2012年度 実施事業】

開催年月日	事業名
	ひこね街の駅「寺子屋カ石」談話室 それぞれの彦根物語
2012.4.21	第90回 『「笑顔のもと」「元気のタネ」～街の駅での素敵な出会いから～』 語り部: やまもと ひまり(「しまさこにゃん」たちの母)
2012.5.19	第91回 「鍾馗(しょうき)さんにはかなわぬ、波兎(なみうさぎ)」 語り部: 杉原 正樹(DADA ジャーナル編集人)
2012.6.23	第92回 「毛筆・硬筆 …活字から変体仮名を使って書き起す楽しさ」 語り部: 田中貴光(書家)

2012.7.21	第 93 回「彦根の『殿様文化』を打破するには」 語り部: 山田 貴之(滋賀彦根新聞社編集長)
2012.9.22	第 94 回「ガラタテ」考 語り部: 金子 孝吉(彦根景観フォーラム監事、滋賀大学教授)
2012.10.20	第 95 回「寺子屋力石のルーツをさぐる」 語り部: 力石 寛治(寺子屋力石 持主)
2012.11.17	第 96 回「鍾馗(しょうき)さんを探しにまちへ出よう！」 語り部: 鈴木 達也(まち遺産ネットひこね、彦根景観フォーラム会員)
2012.12.15	第 97 回喫茶邂逅クリスマスコンサートとはじめての音楽 語り部: 稲山 訓央(のこぎり演奏家・滋賀大学経済学部特任准教授)
2013.2.16	第 98 回佐和山城と呼ばれた彦根城 語り部: 中井 均(滋賀県立大学 人間文化学部 准教授)
2013.3.16	第 99 回 NPO で学んだ、読んでもらえる文章術 語り部: 堀部 栄次(彦根景観フォーラム広報担当理事)
多賀「里の駅」《野菜市&集い》	
2012.4.7	野菜市「地元農家の採りたての野菜」・野鳥の森 植物観察会 集い 42 お話「日本酒の魅力を再発見しましょう」 福元 修(多賀株式会社社長) 試食会「春の里の野草を楽しむ」
2012.5.5	野菜市「地元農家の採りたての野菜」・野鳥の森 植物観察会 集い 43 お話「近江の道・多賀へのみち」 門脇 正人(愛荘町立歴史文化博物館顧問) 試食会「筍料理」
2012.6.2	野菜市「地元農家の採りたての野菜」 集い 44 「みんなで歩こう野鳥の森」
2012.7.7	野菜市「地元農家の採りたての野菜」・野鳥の森 植物観察会 集い 45 お話「写真で見るなつかしい多賀の風景」 渋谷 博 試食会「縁結びそば」
2012.8.4	野菜市「地元農家の採りたての野菜」・野鳥の森 植物観察会 集い 46 お話「語りで聞く昔話 ～多賀、日本、そしてグリム～」 前崎成子 (第 2 期 昔はなし大学実行委員会) 試食会「夏野菜の天ぷら」
2012.9.1	野菜市「地元農家の採りたての野菜」・野鳥の森 植物観察会 集い 47 お話「一圓屋敷の庭園整備について」 庭師集団いろは組 試食会「旬のさつまいも料理」
2012.10.6	野菜市「地元農家の採りたての野菜」・野鳥の森 植物観察会 集い 48 お話「サボテンの魅力」 サボテン愛好家 栗本 宗男さん 試食会「新米の食べ比べ」
2012.11.3	野菜市「地元農家の採りたての野菜」・野鳥の森 植物観察会 集い 49 お話「昭和のくらし」 火口 悠治さん(元小学校校長) 試食会「秋の実りを味わう炊き込みご飯」

2012.12.1	野菜市「地元農家の採りたての野菜」・野鳥の森 植物観察会 集い 50 お話「多賀「里の駅」の 5 年間」 山崎 一眞(彦根景観フォーラム理事長) 試食会「多賀鍋」
2013.1.5	野菜市「地元農家の採りたての野菜」 集い 51 お話「カロムと遊ぼう」 杉原 正樹(カロムハンター) 試食会「焼き餅&ぜんざい」
2013.2.2	野菜市「地元農家の取り立ての野菜」 集い 52 お話「チェンソーアートから広がる世界人と人との繋がり」 試食会「いのしし汁」
2013.3.2	野菜市「地元農家の採りたての野菜」 集い 53 お話「多賀は魅力いっぱい！」 繁田 亮(東京大学 i.school プロジェクト Maru ) 試食会「春のちらしずし」
足軽辻番所サロン「芹橋生活」	
2012.4.22	第 29 回「彦根景観シンポジウム2012の成果を活かす」 彦根景観シンポジウムで司会を務めた建築家 笠原 啓史 問題を提起した彦根景観フォーラム理事長 山崎 一眞 成果の活用者である芹橋まちづくり懇話会より会長 橋本 貢治
2012.5.20	第 30 回「芹橋のまちづくり行動計画を話し合ひましょう」 芹橋まちづくり懇話会のみなさん コーディネータ 山崎 一眞(彦根景観フォーラム理事長) 司会 笠原 啓史(建築家)
2012.6.24	第 31 回「「官事録」を読む(1)」 母利 美和(NPO 法人彦根景観フォーラム理事、京都女子大学教授)
2012.7.22	第 32 回「「官事録」を読む(2)」 母利 美和(NPO 法人彦根景観フォーラム理事、京都女子大学教授)
2012.10.21	第 33 回「独座観念」 小田 輝子(地元住人、彦根辻番所の会会員、彦根景観フォーラム正会員)
2012.11.18	第 34 回「京町家データベースの取り組み」 高木 良枝((公財)京都市景観・まちづくりセンター)
2012.12.16	第 35 回「善利組足軽屋敷を学ぶ」 濱崎 一志(滋賀県立大学教授・彦根景観フォーラム副理事長)
2013.1.27	第 36 回「みんなで考えよう！安心して暮らせる歴史あるまち芹橋 ～まちづくりマップ調査報告と意見交換～」 彦根景観フォーラム 理事 笠原 啓史 住みよいまち&絆研究所 代表 奥野 修
2013.2.24	第 37 回「足軽屋敷を見てみよう！！～足軽屋敷保存修理の事例発表&屋敷公開～」 「吉居家住宅の修理概要について」 建築家 笠原 啓史 「辻番所・旧磯島家住宅保存修理概要について」 市文化財課 深谷 覚
2013.3.17	第 38 回「新出・中藪組足軽辻番所資料の紹介」 渡辺 恒一(彦根城博物館 学芸史料課長)